



法務研究科 法務専攻

仲間 裕夏さん

Q.取り組んでいる研究の紹介

私は、琉球大学法科大学院に所属しています。法科大学院は、いわゆる「ロースクール」と呼ばれる場所で、法曹三者（弁護士・検察官・裁判官）を目指した学生が入学し、司法試験に向けた勉強に励んでいます。そのため、一般的な大学院生が行う研究というよりも、法曹になるために必要な法律の専門知識を学んでいます。具体的には、司法試験受験科目の民法、憲法、刑法、商法、行政法、民事訴訟法、刑事訴訟法、選択科目（私は労働法です）を学んでおり、現在は、法律相談や模擬裁判等の授業で実際に弁護士や裁判官として活躍している先生から、法曹としての実践能力も学んでいます。また、将来、弁護士になった後は、以前から関心のあったセクシュアルマイノリティー、女性の社会進出について等、社会における格差是正に尽力していきたいと考えているため、「性の多様性の尊重と法」という科目も受講しています。このように、予備校とは違い、司法試験に向けた勉強以外にも、自分の学びたいことを専門の研究者の先生から学べる点も大学院のメリットだと感じています。

Q.琉大で力を入れて取り組んでいること（学業以外も可）

私が力を入れて取り組んでいることは、学業と経験を積むことです。学業については、予習・復習・課題とやるべきことが多く、それらが終わると、司法試験に向けた自習をしなければならず、毎日必死です。覚醒したのではないかと思うぐらい集中力がある時であれば、全然やる気が起きないときもありますが。また、私は、「私の経験を誰かのために」をモットーにしています。私が経験した困難やこれまでみてきた世の中の差別等は、マイナスなものですが、同じような経験をしている方は社会に多く存在していると思います。法曹となった際には、私の今までの経験に加え、法曹となるために身につけた法知識を活かし、依頼者に寄り添って納得のいく解決策を提示できるような弁護士になりたいと考えています。そのためには、私自身が多くの経験を積むことが重要であるため、研修に行ったり、イベントに参加したりしています。私の経験が多くの人のためになるよう、これからも様々な経験を積んでいながら、法曹となった後も日々精進していきたいです。



Q.研究の道（大学院）に進まれた理由・きっかけ

法科大学院に進んだきっかけは、弁護士になりたかったからです。法曹になるためには、司法予備試験を経由するルートもありますが、私自身は、法科大学院で設計されたカリキュラムで着実に知識を身につけた上で法曹になるという方法が向いていると思い、法科大学院への進学を決めました。また、既に述べているように、法曹になるまでに必要だと思う学び（課外活動など）を横断的に行えることも魅力の一つであると思っており、大学院生という身分であるからこそ行える活動や研究を行うべく、進学を決めました。

Q.大学院進学を検討している後輩へのアドバイス

大学生の特権は、『時間』だと思います。大学院に入っても、夏期休暇等の長期休暇はありますが、法務研究科の場合、勉強時間を確保しなければならないのも事実です。そのため、大学生の間は思いっきりやりたいことをやるべきだと思います。（もちろん、大学院の受験が終わってからですが、、、）旅行、友達と遊ぶ、やってみたかったバイトをする、短期留学など、社会に出てからはなかなかできないことをやってみてください！また、大学院に進学する学生は、進学後の生活に慣れるため、生活リズムを整え、勉強の習慣をつけておくべきです。私は習慣が身につくまでおらず、苦労しました、、、。最後に、私は勉強でも精神的にも同期に支えられていることが多いですが、人間関係は難しく、お互いわかり合えないこともあると思います。そんな時は、卒業までの関係だと割り切る等、自分の採りたい選択を採れば良いと思います。未来の自分への投資だと思って、様々な経験を積み、頑張ってください！

Q.海外留学しようと思った理由・きっかけ

私は留学ではなく、約2週間のハワイ研修に参加したのですが、このような短期間でもとても良い経験になりました。上述のとおり、セクシュアルマイノリティーに関心があり、ハワイでは同性婚が認められていること、研修では当事者のお話を聞く機会があること等を知り、日本の現状を知った上で他国の現状を学び、法曹としてなにができるか、模索したいと思い、参加を決めました。

Q.海外留学を検討している後輩へのアドバイス

これから留学をされる方は、準備されている方も多いかと思いますが、語学の勉強はしておいた方が良いでしょう。言語を習得すれば、留学先で楽しめるが増えると思います。私自身、英語が得意ではなかったため苦労しましたが、言葉は完璧ではなくとも、伝える気持ちと相手の受け取る気持ちが重要だと感じました。相手方の受け取る気持ちがどれだけあるかは、正直、運としか言い様がないため、自身の伝える気持ちはしっかり持っておいて下さいね！1番感じたのは、違う国であり、違う文化を持った人々であるから、自分の中での許容範囲を広げることが重要だということです。自身へのストレス緩和にもなりますし、「これが外国か〜」といったメンタルであれば十分だと思います。留学は貴重な経験であり、これからの人生において必ずプラスになると思うので、楽しみながら頑張ってください！

Q.琉大の後輩におすすめの図書・雑誌

- ・『だから、あなたも生きぬいて』 大平光代
- ・『おとな六法』 岡野武志・アトム法律事務所
- ・『風と共にゆとりぬ』 朝井リョウ
- ・『シートン動物記』 アーネスト・トンブソン・シートン
- ・『ダレン・シャン』 ダレン・シャン
- ・『あらしのよるに』 シリーズ 木村裕一